

◇ 小西秀延君

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員、登壇願います。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 10番、会派かがやき、小西秀延でございます。本日は1項目4点についてご質問をさせていただきます。白老港の現状と今後の活用についてということでございます。まず1点目、平成25年度の白老港の貨物取扱量の現状を伺います。

①として総貨物量と件数をお伺いします。②、①のうち外航商船の件数、貨物量をお伺いたします。③、同じく①の内航商船の件数、貨物量をお伺いたします。④としまして①のうち防衛関係船の件数、貨物量をお伺いたします。

2点目、平成26年度の白老港のこれまでの取扱貨物量の現状をお伺いたします。①、これまでの総取扱量と件数、また今後の予想をお伺いたします。②としまして①のうちの外航商船の件数、貨物量はまた今後の予想をお伺いたします。③として①のうちの内航商船の件数、貨物量は、そして今後の予想をお伺いたします。④、①のうち防衛関係船の件数、貨物量は、また今後の予想をお伺いたします。

3点目といたしまして白老港の民間企業、防衛関連へのポートセールスの現状をお伺いたします。

4点目ですが10月27日から行われた日米共同訓練に伴う民間コンテナ船の白老港への寄港について。日米安全保障条約また関連する日米地位協定上等や町民の動向をどのように捉えているかお伺いたします。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 白老港の現状と今後の活用についてのご質問であります。1項目めの平成25年の白老港の取扱貨物量の現状についてであります。1点目から4点目については一括してお答えいたします。水産品等を除く商船取扱貨物量は99万7,749トンで過去2番目の取扱量であり商船入船数は501隻でした。うち外航商船の入港船舶数は5隻、貨物量は2万203トン、内航商船の入港船舶数は496隻、貨物量は97万7,546トン、防衛関係船舶は商船としての入港はありません。

2項目めの平成26年の取扱貨物量の現状についてであります。1点目から4点目を一括してお答えします。11月末の実績では88万9,924トンの商船取扱量、入港船舶数は423隻で順調に推移しており今後も関東方面や東北復興事業用の生コン骨材としての砂の移出が見込まれます。またRORO船も初入港し地元企業の製品を移出しており今後の利用に期待しております。外航商船は昨年まで輸入実績のあった貨物は現在まで入港船舶がありません。円安の関係からか国内品が主流となり取扱量としては昨年より増加しております。また外航コンテナ船が寄港し2回の入出港がありましたが取扱貨物量は把握できておりません。内航商船の入港船舶数は421隻、取扱貨物量は商船貨物量と同等であり、うち防衛関係船舶は入港船舶数が3隻、取扱貨物量は696トンであります。

3項目めの白老港の民間企業、防衛関連へのポートセールスの現状についてであります。民間

企業へのポートセールスは私も率先してトップセールスを行っており大変厳しい経済状況下ではありますが各企業を訪問しているところであります。また防衛関係機関についても出張等にあわせ陸上自衛隊や海上自衛隊の各セクションへ白老港の利用の要請を行っております。

4項目めの寄港による日米安全保障条約や町民の動向をどのように捉えているかについてであります。日米共同訓練に伴う民間コンテナ線の白老港への寄港については町民の安全性が確認されたことから寄港を了承しました。寄港に際し2団体から中止要請があり、さらに入港時には一部団体の抗議集会がありましたでしたが特に混乱もなく入港しました。地域住民への安全を確認した上での寄港については町民のご理解をいただけたものと捉えております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 1点目めと2点目めが関連ありますのであわせて再質問をさせていただきます。平成25年度の白老港の貨物量また平成26年度のこれまでの取扱貨物量等をご回答いただきましたきましたが、ポートセールスの結果が平成19年から道内の地方港湾23港では貨物量が第1位となっていることは高い評価ができると思っております。しかし昨年度1月から供用開始されている第3商港区の利用率が今後の課題となっているのが現状かと把握しております。平成25年度、26年度の第3商港区の民間商船の利用件数と貨物量また防衛関連の貨物量はどのようになっていますでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 平成25年のマイナス11メートル岸壁の利用ですが、11月に供用記念式典を挙りましたが実際に使えるようになったのはことし1月からです。これは工事の関係でまだ工事中だったことから利用できませんでしたが、ただ2隻は入っております。26年度の実績としましては12月2日までに73隻入港しております。取扱量が16万524トンございます。うち今まで入港できなかった5,000トン以上の船舶が14隻入っております。そのうち防衛関係としましては2隻入っております。貨物量が約900トン入っております。それと先日入港したクリッパーマキリは入っておりますが貨物量は把握できておりません。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 第3商港区についても73隻とポートセールスも徐々にではあります効果があらわれてきているというふうに理解ができました。第3商港区でなければ入れない船も14隻入ってきているということで、これもポートセールスの実績かというふうに理解ができるかと思っております。

また私は民間へのポートセールスこれも非常に重要だと思っておりますが、防衛関係のポートセールスもこれからはやはり重きを置いていくべきではないかというふうに思っております。なぜならば民間だけに頼ってきますとどうしても実績、先ほど出していただきましたが全道で第1位といいましても例年の実績と大体同じぐらいで推移しているかというふうに見受けられます。ここに過去10数年の実績がありますが19年度からずっと第1位をキープしているということではございますがなかなか頭打ちをしていると。ここを急激に伸ばしていくためにはやはりこれまでなかなか皆さんが目を向けなかった民間にだけに頼らず防衛関連のセールスももっとしていく

べきかと思っております。

その要因となるところがこれからご説明するところになっていきますが、それに入る前にもうちょっと港についての質問をさせていただきたいと思います。第1商港区から第3商港区の25年度の港湾使用料、おおよそでいいのですがこれはどれぐらいになっているか実績を把握されていますでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 大変申しわけございませんが港区ごとには分けて出してはおりません。港全体で岸壁使用料と係留施設使用料としては990万円の収入がございます。また船舶給水ですとか用地貸付を含めますと5,174万円の収入がございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 私は港湾施設の使用料というのは額があればやはりこれは白老町の収入になりますので大変結構なことだと思うのですが、それより物流の拠点としてこの白老港がどうあるべきかということのほうが問題は大きいのではないかという認識でおります。先ほども使用料の点で今回の米軍の使用料の件もございましたが、米軍の件はまた後ほど述べさせていただきますが物流は経済の大動脈といわれております。その港湾があることによって使用料が上がるからこの港湾を持ってよかったのだということよりは、地元の経済が発展するそのための港湾であってほしいというふうに私は理解をしておりますが町の考えとしてはいかがでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 私も全くそのとおりでと思っております。何ぼ船が入ってきても限られた使用料収入しかございません。港は高いお金を出してつくっていますが白老町の経済発展のため地域の企業のためということで建設していると思っております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） ここでセールスについてもうちちょっとお尋ねをしたいのですが、ポートセールスで国内企業へのPRは大体先ほどのご答弁でおおむね理解できるのですが、外航商船は大体が7隻以下の数量でここ数年推移しております。ところが平成19年度だけは17隻入港しております。これはセールスの成果なのか、それとも海外市場等の特殊な事情があったのか。どうしてこの年だけ多かったのか理由を把握されていればお伺いさせていただいて今後の参考にさせていただきたいと思うのですがどのようになっていますでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 外航商船の輸入物というのは日本製紙で使っているライムストーンという製品なのです。これは白い石で紙を白くする原材料なのですが、これが国内品が高いとか国外が安いとか、やっぱりその企業の経済状況というかその状況、状況で変わってくると思います。ですから去年までは現実にこの製品は輸入していたのですがことは1隻も入ってきません。理由を聞くとやっぱり円安の関係で原材料が入ってくると高くなると、それで国内品を使っていますと。先ほども町長が答弁しましたがことし量はふえているのです。ですからもう少しまた状況が変わってくれば輸入があるかもしれないという状況であります。

○議長（山本浩平君） 10 番、小西秀延議員。

〔10 番 小西秀延君登壇〕

○10 番（小西秀延君） 円安の影響が非常に大きいという理由は理解できました。それで国内の流通のほうにシフトされているということでございますね。円高円安がやはりこういう大きな物流に関してはかなりの左右があるのかというのは勉強させていただきました。

それと大型の豪華客船ちょっと前までは富裕層が世界を一周したりとか長距離の船旅を楽しむとかそのような利用のされ方をしておりました。しかし最近はこの中間層の方々にも楽しんでいただくということで距離を短くして割合近距離な船旅それを豪華客船で行おうという動きが最近頻繁に見られるようになってきました。それらへの事情の把握とポートセールスは今後考えられていくかどうかその辺のお考えを伺いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 客船の関係ですが今までどうしても 7.5 メートルの岸壁しかなかったものですからポートセールスできない状況でいましたが、今後 11 メートル岸壁になりまして利用できる船舶もありますのでポートセールスも行っていこうと思っておりますが長い目で見なければ、今お願いしたから来年入るということではなくて 3 年くらいかかるのです。少しずつは動いていますがすぐ来られるかどうかはちょっとわからない状況であります。

○議長（山本浩平君） 10 番、小西秀延議員。

〔10 番 小西秀延君登壇〕

○10 番（小西秀延君） 当白老町は 2020 年度に象徴空間が完成するという事でこれも観光としては大きな魅力になり豪華客船でいらっしゃるお客様もここをぜひまた見てみたい、新しい国立博物館ができるなら見てみたいという観光コースになり得る航路かというふうにも理解しております。ぜひ時間はかかるかもしれませんが長い目で見て豪華客船がこの岸壁に着くと何百人というお客様、へたすれば 1,000 人を超えるお客様がこの白老港から白老町の中で経済活動を行っていただける形になろうかと思います。ぜひ 2020 年に向かってもございますので鋭意努力をお願いしたいと思っております。

それは 3 項目目の質問に入らせていただきます。白老港の民間企業、防衛関連へのポートセールスの現状はおおむね今ご回答いただいたので理解できました。私はこれまでの第 3 商港区の現状や実績を考えて、先ほどもいいましたが民間企業のセールスも重要ですが今後は防衛関係のセールスに比重をかけていくべきと考えております。平成 25 年 12 月 17 日に国家安全保障戦略とともに新たな防衛計画の大綱が策定され一層厳しさを増す安全保障環境に対応するため、全国の部隊による北海道の良好な訓練環境を拡大し効率よく演習を行うほか輸送艦や民間輸送力の積極的な活用や部隊の機動の向上を進めるとしてあります。また各種特別事態発生時に民間空港、そして港湾の自衛隊による速やかな使用を可能とするための施策を推進すると発表されております。このように防衛省は北海道の演習場の利用拡充を計画し輸送力の強化も現在計画をしております。道内の師団、旅団は全て機動運用部隊であり大規模な輸送展開の力が求められております。当町には輸送力強化のための第 3 商港区や演習に必要な弾薬を格納している駐屯地も所在しております。防衛計画大綱の中期防衛力整備計画の推進に大いに役立てる環境にあると私は考えていますが、ぜひこれらをもっと PR し防衛関連施設の集約や第 3 商港区の活用を要望していただ

しいと思いますが町としての考えはいかがでしょうか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） これまでも上京した際には防衛省等々に行って白老港のPRと利用についてポートセールスをさせていただいておりますし、昨今は2カ月ぐらい前に白老町の中に期成会が民間の団体でつくられましたので、その中にも今小西議員のおっしゃるような目的が書いておりますのでそこと連携をとりながらポートセールスを進めていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 白老町は立地にも恵まれておりまして、先ほどいった弾薬庫のほかには上空から考えれば北海道大演習場が他のまちを通らなくても空路であれば近い距離にあると考えることができると私は思っております。港から今回先ほど同僚議員から米軍のヘリの話も出ましたが、その米軍のヘリを先にさせていただきたいと思っております。4点目に移らせていただきます。米軍のヘリが白老町で組み立てられて飛び立ったという話が先ほどございました。米軍のヘリが乗ってきた船は今回民間の船でございました。係留された使用料が128万円程度だったというふうに先ほどご回答をいただいております。そのほかに経費が警備を入れて経費全体で104万円程度かかってしまったという話でございました。それで白老町に今回使用料として真水で残ったのが23、4万円程度ということでございますが、今回白老町は始めて民間船ではありますが米軍の機材を受け入れました。それで警備をつけたのかというふうに私は理解をしておりますが、この民間船での輸送については通常他の港においてはそのまちが警備するというにはなっていないというふうに私は理解をしております。委託された民間の輸送会社が運ぶ物品を責任を持ってきちんと上陸させるとそれが会社の仕事であるというふうに理解をしておりますが町はどのような考えでございましょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 小西議員おっしゃるとおり貨物を警備するのは原因者がするものであります。通常のそういうものですと当然うちとしてもつけません。今回の民間船ですがこれは米軍として日米地位協定によって入港していますので苫小牧警察署と相談して協議した結果、町民と港湾施設を守るためには町でまず警備をつけなければならないだろうと。どういう動きがあるかわかりませんし、どういう人たちがくるかもわからないということの中できちんと警備しましょうと。あくまで物を私たちが守ったというわけではございません。そういうことでございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 初めて入港したときにはやはり間違いがあっては困ると本当に慎重な対応をとった町の今お話を聞かせていただければ理解はできましたが、通常やはり荷物を預かった民間の企業がきちんと責任を持つべきであると私は考えております。もし次回またこのような民間船が入港するようなことがあれば、きちんとそれは民間の仕事として請け負った側が責任を持っていただくようなシステムをこちら側からも要望できるようにしていただければというふうに思っております。それだけでなく使用料というのは先ほどもいいましたが本当に安価な

もので、それにまた経費をかけていくとどうしてそんなのをわざわざ呼ぶのだというような話にもなりかねないことですので、ぜひお互いがきちんとお互いの立場を認め合えるような利用の仕方を構築していくべきだというふうに私は感じております。

続きまして日米保安条約の中核たる第5条は日米両国が日本の施政のもとにある領域におけるいずれか一方に対する武力攻撃に対し共通の危険に対処するよう行動するとしております。これが中核でございます。我が国の領域に対する武力攻撃が発生した場合、両国が共同して日本防衛に当たる旨規定されており、第6条では平素より米軍の駐留を認め米軍が使用する施設区域を必要に応じて提供できる体制を日本側が確保しておく必要があるとしております。また具体的事項及び我が国における駐留米軍の法的地位に関しては日米間の個々の協定によるべき旨を日米地位協定として定めております。要するに互いに協力し合うよきパートナーとしての責任を果たすことが日本はもとより極東の平和と安全に寄与する行為と理解しておりますが町はいかがなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 条約と地位協定のお話ですので一自治体がどうのこうのということではなくて国と国との間の条約事項というようなことですから私どもがこれに対してどうのこうのということではなくて、この条約あるいは協定これに基づいて私どもの港湾を利用するかしないか、させることができるかどうかそういう判断の中で今回は入港を許可したということでございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 私も今副町長がおっしゃられたとおりでというふうに理解をしております。ただどうしてもこの日米安保条約や地位協定これに反対される意見をお持ちの方もいらっしゃいます。今回も反対される方が港近くで反対運動をしたということもございました。しかしながら白老町は条約や法律のものと的確な仕事をこなしたというふうに私は理解をしておりますし、また今後もぜひその旨を遂行していただきたいというのが今の質問の主たる目的でございます。

日米共同訓練に伴う民間コンテナ船の白老港への寄港については我々議員には10月15日付けの文書で説明がございました。町民への周知はいつどのような形で行われたのか確認をしたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 町民への説明ですが港周辺、近隣の町内会3町内会の町内会長とお会いして回覧を回していただきました。日づけは15日です。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 近隣の3町内会の方にご説明したということでしたが、その際に疑問や不安を訴えられたような形は町として捉えているところはございますでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） いいえ、ありません。質問もありませんでした。

私のほうからそういう状況ですというご説明はいたしました。またその後も私のほうには電話は入っておりません。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） その後もということは確認をさせていただきますが、日米の共同訓練が終わってから荷物を搬出した後も町民からの苦情は1件もなかったというふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○産業経済課港湾担当課長（赤城雅也君） 私のところには1件も入っておりません。ただ釣り人の方がいつから使えるのだということはありませんが苦情等はありませんでした。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 私も何度かこの船が入るとき、そして最近もちょこちょこ港のほうはどれぐらい利用してくれているかと思って気になって行って見ております。大変釣りをさせている方が多いのにはびっくりしておりますが、そのぐらいの苦情であったということは大変安心できるというふうに理解をしました。私の周辺もほとんど迷惑なこともないし危険性も感じられないというおっしゃる方が大変多いです。それにも増してもっと利用してもらえないのかと、どうせ第3商港区は今ひまなのだろうと、町民の皆さんよくご存じだということのか、はっきり物をいう方が結構多かったです。また新聞紙上でも港近くに住む住民の方が米軍機を搭載した貨物船が出港したことに対し、寄港している間は交通量が多くヘリの音が多少うるさく感じた程度であるなどと冷静に受けとめております。再び寄港要請があった場合も特に気にならないし問題がないのではないかというふうにも報じられておりました。そしてなおかつ町民からの苦情が現在ないということでございますので私は町民の多くの方、絶対100%全員が理解してくれるということはあることだと思っておりますが、ただ米軍ヘリが白老港で組み立てられ飛行したことについて一部から批判の声も聞かれたということも私の耳には入っております。米軍のヘリが組み立てられ飛行したということは航空特例法第126条第2項また第127条等により認められた飛行と私は認識をしております。互いの信頼上の情報交換を行ったものと理解しておりますが町としてはこれをきちんと把握しどのように捉えていたのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） まず入港に関しましては打診があつて、その状況がどうなのかというようなお話を冒頭にさせていただきましたけれども、先ほどの条約なり地位協定なりそういうような基本に立った中でまず一番最初に考えなければならないのは安全性がどうなのかということです。入ってくるのには決まり事といいますかそういう中で打診がありましたけれども、それに対してやはり町民の安全が確保されることがまず第一条件の中でそれを確認できたので承認をしたと、入港を許可したということです。まずはそういうようなことで向こうの打診があつた時点でのお話としては安全性の確認というようなことで考えました。ただ今いわれたそこでヘリコプターが組み立てられていくということに対して、そこについても安全性ということでは当然上空を通らないようにという確認と、その方法としては海岸線を通して民家のないところで訓

練基地に入るというようなお話でしたのでそれについても了承したということです。

航空特例法そういうようなお話でしたけれども、そこまでその時点では別に法律がどうのこうのというのは押さえておりませんでしたけれども、考えとしては上空を飛ばない、それから入港に際して安全性が確保できているのかどうなのか。それからその運搬する、陸送についてはどうなのか。それからヘリを飛ばすに当たっての航路はどうなのかその安全を確認したということでございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 町民に対する安全性が確認されたのでヘリを組み立て上空を飛行して訓練地まで移動したということで、まずは私も町民の安全性これが第一だというふうに考えております。一部の報道ではヘリの航空路が申し合わせと異なったということで町が抗議したというふうに書かれている報道がございました。そのような事実があったのかどうなのか。そしてまたあったとすれば抗議をしどのような話し合いが行われたのか、ご説明願いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 先ほど申したとおり安全性の確認ということでは民家の上空を飛ばないようにというような申し入れをして、向こうからは海岸線制を通して厚真の区域から訓練区域に入るというようなお話でしたので海岸線を通してということの安全を確認したと。当日たまたま私は港には行けなくて、役場の庁舎の駐車場といいますかそこから第1回目のヘリの飛行の確認をしていました。その時点では樽前山の方向に向かって飛行編隊を組んでいるというように見受けられたので、これについては窓口でありました第7師団のほうに電話しまして当初受けている航路と違うのではないかとというようなことで申し入れをして、第7師団としてはそこは確認しますと。当然ヘリコプターは米軍のパイロットだけではなくて先導するということでしたので先導機が間違っているのかというようなことを含めて確認をさせていただきました。時間は未定ですけども追って電話が入ったのは5キロ飛ばしてというようなことで編成を組むのに樽前の方向といいますかそちらのほうに飛行して、その後苫小牧の西側から海岸線に向かっていったということでそのままずっと飛行したということではなくて、編成が組まれた時点で海岸線に入りましてそこから厚真のほうに向かったというようなことで一度そういうような電話をさせていただきました。安全性をという話とちょっと違うというようなお話をさせていただきます。その後翌日第2班といいますか2回3回につきましては当初の申し出のとおり海岸線を最初から行ったというように承知しています。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 法律上問題ないとしても信頼関係というのは非常に大きなものと考えております。私どもや町が町民に安全だという説明をするにもやはり信頼というのがあった上で成り立つものだと私も確認しておりますので、町がそれはちょっと違うのではないかと抗議してそれを向こうも理解をしてくれてこちらのほうも事情がわかったということであれば大変いい形だったのではないかとというふうに思います。ただ利用してくれて好き放題やられたというふうになってしまうと町民は絶対不信感を持ちます。もしお互いの情報交換の中ですれ違いがあるな

らきちんとお互い情報交換をするべきだと私も考えますし今後もそのような対応をお願いしたいと思っております。白老港を利用してもらえるのであればお互いに大きなメリットがあると私は考えております。単に日本の国防のためだけでなくアジア太平洋地域ひいては世界の安全保障に白老町が一助でも貢献できることになり、また沖縄にアメリカ軍の防衛施設が集中しすぎている、訓練も多すぎるというような問題も出ています。そのようなときに私たちも一日本国民としてきちんと日本の防衛というのもどうあるべきなのか、1カ所に負担をかけていいのかどうなのか、私たちはできることはないのかその辺も日本の防衛省とさらなる良好関係を構築できるように考えながら行動をしていくことが重要なのではないかというふうに思っております。それらのことも兼ねてもう一度防衛関係へのポートセールスの強化、町長にくどいようですがご質問をして私の最後の質問にさせていただきたいと思えます。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 白老で演習は行われていませんが日米の合同演習ということで千歳のほうで行われました。これはやっぱり小西議員おっしゃるとおり日本国の安全そしてアジア、世界の安全保障の一環だというふうに私も思っております。またそこに今回は向こうのほうから白老港を使わせてほしいという問い合わせがあつてこういう形になったのですが、まずは町民の安心・安全を守る上で情報を共有しながら港を利用していただくというのは第一条件だと思っております。今回は特に期間が短かったというのもありまして、その間に先方と情報共有はしたのですが初めて入港したこともありさまざまな部分で町民に負担を与えてはいけないというところから警備も置くような形になりまして費用対効果を考えますと今回1回だけではそんなにないかもしれませんが、今後ともこれを機に防衛省とも密に連絡をとりながら情報共有をしながら白老港の活用にも力を入れていきたいと思えますし防衛省のほうにも白老港を利用していきたいという旨はポートセールスとして伝えていくのと同時に白老にある駐屯地の維持、拡充に向けても防衛省のほうに要望をしていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 以上を持ちまして10番、小西秀延議員の一般質問を終了いたします。